

福島、宮城の障害者作業所を応援

手作り商品仕入れ販売

東日本大震災で被災した東北の障害者作業所を支援しようと、中央区のNPO法人「誕生日ありがとう運動本部」(光岡丈一理事長)が19日、JR三ノ宮駅東側の商業ビル「サンバル」地下街でバザーを始めた。21日までの3日間、福島、宮城両県から手作りみそ、アクリルたわしなどの授産製品を取り寄せて販売する。
(直江 純)

東日本大震災

中央区 同本部は知的障害者を支援するため1970年に発足。古切手を募って分類し、収集家などに販売して活動費を賄ってきた。阪神・淡路大震災では事務所を置いていた旧神戸国際会館が全壊したが、切手を送ってくれていた全国の作業所から支援を受けた。
東日本大震災では、長年交流してきた福島県いわき市の「なご授産所」

「16年前の恩返しを」 みそやたわし バザーを開催

NPO企画

(高村トミ子理事長)が被災。同市内は津波で大きな被害を受けたが、通所者は全員無事で、特産のみそ造りも再開したことが分かり、継続的な支援を目指して同本部が神戸での販売を賣って出た。
バザーでは、無添加のみそ600球を原価の300円で販売。仙台市の施設からも商品を仕入れ、神戸市内の作業所製品や古切手のコレクションなどを合わせて販売す



「被災した施設の支援を」。福島、宮城県の障害者が作った製品をバザーで販売している=中央区雲井通5

る。今後も毎月、同じ会場
でバザーを開くという。
同本部の光岡理事長
(60)は「阪神・淡路の時
に支えてもらった恩があ
る。地震、津波に加えて
原発の風評被害で苦勞し
ている福島や東北の障害
者を応援したい」と話し、
通信販売など販路の拡大
も検討している。
なご授産所の高村理
事長(71)は「神戸から支
援の手を差し伸べてもら
い本当にありがたい。自
慢のみそを頑張ってる
ていきます」と被災地か
ら電話でメッセージを寄
せた。
バザーは午前10時〜午
後6時。5月は24〜26日
に開催予定。同本部 ☎
78・360・1212